

## Refill サミット 2021 京都 宣言

2020年、新型コロナウイルスによるパンデミックは、私たち人類が自然界をコントロールすることはできないということを、強烈に示しました。未知のウイルスの拡大は、気候変動とともに、人類の驕りへの警告といえるでしょう。

感染防止のための外出自粛生活は、我慢や不便も生じていますが、様々な気づきの機会にもなっています。

その一つが、水道インフラの価値です。日本に住む私たちは、わざわざ外にペットボトル入りの水を買に行かなくても、蛇口をひねれば、安全で質の高い水道水を飲むことができ、手洗いをすることもできます。

また、飲食店のテイクアウトやデリバリーのため、使い捨て容器の利用が大きくなりましたが、一方でその環境負荷の増加に危機感を抱き、持参容器への提供やリユース容器の導入等、新たな取り組みを始める事例も各地で見られます。

こうした動きは、私たちがこれまで進めてきた「脱使い捨て」の取り組みが、すでに止まることのない大きな潮流になっていることを示しています。

私たち Refill Japan が、2019年から展開してきた地域の給水スポットを増やす活動も、コロナ禍の中でも、着実に進んでいます。新たに給水スポットへの登録を希望する店舗、新たに活動を開始する地域、新たに給水インフラを設置する自治体や事業者等の取り組みは、私たちの活動のパートナーとなり、確実に裾野は広がっています。

給水スポットを増やし、利用を広げる活動は、持続可能な資源利用、気候変動の緩和、森林や海の保全、飲料水へのアクセスと健康を守ること、魅力的なまちづくりとコミュニケーションの促進など、様々なSDGsのゴール達成に貢献します。

給水スポットのまちづくりは、市民、事業者、行政が、連携しながら、SDGsに向けて取り組むきっかけとして最適であることを、すでに実践している私たちは、実感しています。

本日、第2回リフィルサミット in 京都に集った私たち Refill Japan のメンバーは、私たちの活動が、地域に、日本に、そして地球に、貢献できる多くの意義を再認識し、さらに広げていくための戦略を議論しました。

私たち地域のリフィル団体は、次の行動を起こすことを宣言します。

- 地域の幅広い市民や関係者に、給水スポットづくりへの参加を呼びかけます。
- 地域の水飲み場や協力店舗の現場を確認し、正確な給水スポット情報を収集、提供

します。

- ・イベント会場の給水コーナーや、街中での試験的給水ステーション設置により、給水インフラの必要性、重要性を、多くの人々が実感する機会を創出します。
- ・給水スポットがより多くの人に利用されるために、スマホ対応のマップやステッカーによる可視化と周知をはかります。

そして、事業者、自治体、国に向けて、以下を提案します。

大きな公共空間を有する事業者は、

- ・水飲み場や給水インフラを設置し、誰もが利用しやすいようにすること

自治体は、

- ・公共施設に利用しやすい冷水機などを設置し、利用者を熱中症のリスクから守るとともに、質の高い水道水への信頼を高めるチャンスとすること
- ・屋外で人の多く集まる場所に使いやすく魅力的な水飲み場を設置することで、人にやさしく潤いのあるまちづくりを推進すること
- ・地域の事業者に無料給水サービスへの協力を呼びかけること
- ・公共施設の飲料自販機の削減、会議での飲料提供方法の見直し等の率先行動で市民や事業者の行動を牽引すること

国には、

- ・消費者がライフサイクル全体の環境負荷を考慮した飲料利用の選択ができるよう、資源使用量やエネルギー消費等の正しい情報を提供すること
- ・公共および民間のオフィスビル等を新築、改築する際には、誰もが利用できる給水インフラを設置することを推進するしくみを構築すること
- ・公共施設の飲料自販機の削減、会議での飲料提供方法の見直し等の率先行動で市民や事業者の行動を牽引すること

SDGs を達成すべき 2030 年まで残り 10 年を切った今、市民、事業者、自治体、国が、手を携えて、大きな一歩を踏み出しましょう。

2021 年 2 月 14 日

Refill サミット 2021 in 京都 参加団体一同

Refill 東京

Refill 松戸

Refill 湘南

Refill いしかわ・金沢

Refill 京都

Refill 生駒市

Refill 大阪

Refill 香川

Refill 福岡

Refill 熊本